

# 大阪緑涼高等学校

(様式 4-2 : 令和 2 年度 モビリティ・マネジメント教育 (交通環境学習) にかかわる学校支援制度  
実施結果報告書)

## 実施結果報告書

1. 学習名称：モビリティ・マネジメント教育 (交通環境学習)					
2. テーマ：公共交通機関と歴史的文化財の共存 他					
3. 実施教科：総合的な探究の時間					
4. 関連単元：現代社会					
5. 実施単元数：5 時間					
6. 学年	高校 1 年	7. クラス数	4 クラス	8. 生徒数	141 名
9. 実施内容					
①少子高齢化をはじめ、地域住民の自立した社会生活の確保、活気あるまちづくり、観光振興による地域の活性化、環境問題への対応といった観点から、地域の公共交通の活性化・再生が極めて重要な課題となっている。『モビリティ・マネジメント』に取り組むことで、「地域の公共交通」・「クルマ社会」・「交通まちづくり」・「モノの流れ」を考える機会とする。また、先入観にとらわれることなく論理的思考力・多角的視点を養いながら、交通を取りまく様々な問題の解決を目指す。					
②進路を見据えた授業を展開するため、高校 2 年次からの各系統に分かれ、それぞれの視点から『モビリティ・マネジメント』を考えることとした。					
《言語と文化系統》					
・藤井寺市内の 3 つの駅を利用し、充実した歴史・文化遺産をめぐるプランニング。 ※企画書提出当初の原案					
《地域と社会系統》					
・なぜ、高齢者は買い物に困っているのだろうか。その解決策を考える。					
《理数科学系統》					
・クルマから排出される Co2 を「吸収」「除去」する『カーボンニュートラル』を考える。					
《食と農マネジメント系統》					
・『フードマイレージ』とは何かを知り、「食」と「地産地消」を考える。					

10. 学習のながれ：

※別紙 学習指導案・ワークシート（製本資料）をご参照ください。

※学習で使用した教材やワークシート、学習風景を撮影したビデオや写真、指導計画書などを添付して提出してください。

2021年度 大阪緑涼高等学校 総合進学コース1年

# モビリティ・マネジメント教育

(交通環境学習)



年	組	番	氏名
---	---	---	----

# 目次

1. はじめに	P.1
2. 選定結果通知書	P.2
3. 総合的な探究の時間 学習指導案①	P.3
4. 『モビリティ・マネジメント』って何？ 講義内容	P.5
5. 総合進学コース:モビリティ・マネジメント教育 ワークシート①	P.10
6. 総合的な探究の時間 学習指導案②	P.12
7. 総合進学コース:モビリティ・マネジメント教育 ワークシート②	
●地域と社会系統 A 班のまとめ	P.14
●言語と文化系統 B 班のまとめ	P.16
●理数科学系統 C 班のまとめ	P.18
●食と農マネジメント系統 D 班のまとめ	P.20
●食と農マネジメント系統 E 班のまとめ	P.22

はじめに

『地球環境問題は、なぜ起こるのか。』という問いに対して、どのような答えが相応しいだろうか。誰でも、暑い日はエアコンを使用する方が快適であるし、公共交通機関を使用するよりクルマに乗る方が都合が良い。個人にとっては、環境に配慮しない方が圧倒的に「便利」で「快適」で「得」なのである。

つまり、地球環境問題は我々人間のエゴによって引き起こされているのである。こういう状況は、社会的ジレンマ (social dilemmas) と呼ばれており、地球環境問題の他にも駐輪問題や、電車の中での携帯電話使用など、私益と公益が相反する社会状況のことをいう。

では、このような社会的ジレンマを解消するために必要なものとは何であろうか。それは、「環境」を変えることであり、そのためには個人の「意識」を変えることが求められる。

今回、総合進学コースでモビリティ・マネジメント教育を行うにあたって、交通環境を学びながら、

- ①「地域の公共交通」を考える。
- ②「クルマ社会」について考える。
- ③「交通まちづくり」について考える。
- ④「モノの流れ」を考える。

を全体的なテーマとして、2年次に進む各系統のテーマを、

《地域と社会系統》

・なぜ、高齢者は買い物に困っているのか。また、どんな解決法があるかを考える。

《言語と文化系統》

・藤井寺市内の3つの駅を利用し、充実した歴史・文化遺産をめぐるプランを立てる。

《理数科学系統》

・クルマから排出される Co2 を「吸収」「除去」する『カーボンニュートラル』を考える。

《食と農マネジメント系統》

・『フードマイレージ』とは何かを知り、「食」と「地産地消」を考える。

とし、【起】原因の探究・【承】心情への共感・【転】価値の究明・【結】意思決定をグループごとにディスカッションさせ、各グループの『ベスト』を発表することとした。

ディスカッションの際のルールとして、相手の意見を決して否定せず、自分の意見との違いが何なのかを考えさせるよう努めた。

公益財団法人交通エコロジー・モビリティ財団様より、交通環境学習に関わる学校支援制度に採択いただき、このモビリティ・マネジメント教育を良い契機として、今後はSDGsへの取り組みにも繋げていきたいと考えている。

最後になりましたが、授業の進行を務めていただいた総合進学コース各担任の先生方には、心から感謝を申し上げます。

大阪緑涼高等学校  
地歴・公民科 沖島 和明

## 2021年度 1学年 総合的な探究の時間 学習指導案①

1学年：沖島 和明

0.実施日：令和3年11月11日(木)5時間目

実施クラス：1年5・6・7・8組(総合進学コース)

実施教室：HR 教室(図書館・マルチメディア教室)

1.主題：『モビリティ・マネジメント』って何？

2.主題設定の理由・目標

・少子高齢化をはじめ、地域住民の自立した社会生活の確保、活気あるまちづくり、観光振興による地域の活性化、環境問題への対応といった観点から、地域の公共交通の活性化・再生が極めて重要な課題となっている。『モビリティ・マネジメント』に取り組むことで、「地域の公共交通」・「クルマ社会」・「交通まちづくり」・「モノの流れ」を考える機会とする。また、先入観にとらわれることなく論理的思考力・多角的視点を養いながら、交通を取りまく様々な問題の解決を目指す。

3.学習項目

◎公共交通機関と歴史的文化財の共存(提出した企画書のタイトル)

・『モビリティ・マネジメント』とは何か。グリーンホールにて講演(本時)

・『モビリティ・マネジメント』とは何かを理解し、「持続可能な社会のための交通環境」を考える。(1時間)

・2年次からの希望系統ごとに、「持続可能な社会のための交通環境」についてのグループワーク(2時間)

※希望している系統ごとに、4~6名程度のグループを作成してください。

・系統ごとに考えた「持続可能な社会のための交通環境」を、グループごとに発表(1時間)

4.展開

	学習内容	指導上の留意点	配当時間	備考
導入	そもそも『モビリティ・マネジメント』とは何なのか。	聞いたことがあるか生徒に確認(挙手)	5分	知っている生徒がいれば、簡単に発表させるのも良い。
展開①	「地域の公共交通」「クルマ社会」「交通まちづくり」「モノの流れ」を考える。	難しく考えず、CO2 排出問題や地球環境問題と考えれば良い。	15分	ココでは、必ずしも自分が進む系統に拘らなくても良い。
展開②	クラスメイトが考える「持続可能な社会のための交通環境」と自分の意見を比べる。	最低でも2人と意見交換し、お互いが共感できた部分と、考えが違った部分を記入する。 相違点を記入する際、相手の考えを否定しない。	10分	前後左右の生徒との意見交換もしくは、動きをつけながら色々な生徒と意見交換するのも良い。

展開 ③	<p>同じ系統に進むクラスメイト同士で班を形成する。</p> <p>グループが決定したら、ワークシートに、個人が考える「交通環境」のテーマを記入する。</p>	<p>仲の良い友達同士ではなく、あくまで次年度の系統ごとにグループを作成する。</p> <p>同じ系統が多い場合は複数のグループを形成し、逆に少ない場合は4名以下のグループでも良いものとする。</p> <p>※但し、1名は認めない。</p>	15分	交友関係等での編成は、担任の先生方に委ねます。
まとめ	<p>次回から、編成したグループでの調べ学習をすることを説明。</p>	<p>強制はしないが、予めディスカッションしたいテーマを各自で決めてくる(宿題)よう伝える。</p>	5分	

※ 「正解は必ずしも1つとは限らない。」ことを強調していただき、社会(世界/日本/地域)で起こっている問題を、自ら調べ、考え、話し合いながら答えを出し、実行に移すことを目標としていることも生徒たちに伝えてください。

※ 当日、沖島は1組で『SDGs』について総合の授業をやっています。クラスでの取り組みがどうだったか、改善すべき点などがあれば遠慮なく沖島までお願いします。

『*Think Globally, Act Locally.*』(～地球規模で考え、身近なことから行動しよう～)

『モビリティ・マネジメント』  
って何？  
～交通環境学習～

講師  
地歴公民科:田中 伸明  
主幹  
地歴公民科:沖島 和明

『モビリティ・  
マネジメント』って  
聞いたことありますか？

『モビリティ・  
マネジメント』って  
言葉から  
どんなイメージを  
持ちますか？

モビリティ・マネジメントとは？

<言葉の意味>

モビリティ=交通 マネジメント=管理・改善

つまり…

それぞれの「交通」が抱える問題点を、人と  
組織と社会の活力を通じて「管理」し、少し  
ずつ「改善」していく取り組み

将来、  
車に乗るだろう、乗り  
たいと考えている人は  
どれくらいいますか？

車社会が社会全体に与え  
る影響について、  
具体的な話を用いて考え  
てみよう！！



### 時刻表の比較

7時					7時		
0	3	6	10	12	7	26	43
15	18	21	23	25			
28	30	32	35	37			
39	42	44	46	48			
51	53	55	57				

Osaka Metro 御堂筋線 梅田駅

山陽本線 岡山駅

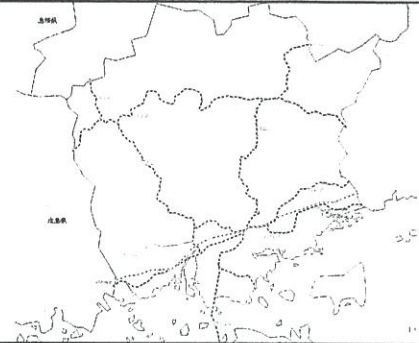
なぜ、  
Osaka Metro御堂筋線は本  
数が多くて、  
山陽本線は本数が少ないのか？

答え：利用者数の違い

では、なぜ、  
岡山の人々は電車を積極的に利  
用しないのか？

答え：路線が張り巡らされておらず、  
車社会が形成されている

岡山県の  
鉄道網



車社会が形成されることの  
メリット・デメリットを  
考えてみよう！

### <メリット>

- ・どこへでも移動がしやすい
- ・重たい荷物を運びやすい
- ・他人に邪魔されない

など

### <デメリット>

- ・ 電車やバスの利用者が減る  
→ 車に乗ることのできない人の移動手段がなくなる
  - ・ CO<sub>2</sub>排出量の増加
- など

現在、日本全国で電車やバスの路線廃止が進んでいる

### <理由>

利用者減少により、利益を出すことができなくなってしまうため

### <問題点>

路線が廃止されると、車を持たない人の移動手段がなくなる  
→ 仕方なしに車に乗らざるを得なくなる  
→ 多くの人が車に乗ることで大気汚染が進行する

### クイズ

どちらのほうが、CO<sub>2</sub>を多く排出しているでしょうか？

- ① 10分間車に乗る
- ② エアコンを1日かけ続ける

答え：① 10分間車に乗る

車の利用を最大限減らしていく  
社会の構築が必要になってくる

※ただし、車を100%なくすのではなく、かしこく使う方向へ行動転換を図っていく!!

### これからの予定

- ① ガイダンス(本日)
- ② 調べ学習(11月18日(木)5限)
- ③ 調べ学習・まとめ  
(1月14日(金)4限)
- ④ 研究発表(2月17日(木)5限)

## 研究内容

自分の選択した系統にあわせたモビリティ・マネジメントを考える  
(持続可能な社会のための交通環境について)

## 研究のステップ

- ①モビリティ・マネジメントについて、達成目標をイメージする
- ②同じ目標を複数人で共有する
- ③目標を達成するための方法を考える

## <地域と社会系統>

- 電車やバスの路線が廃止された地域の人たちがどのように生活するか
- そもそも電車やバスの路線を廃止させないためにどのような施策が必要か

## <言語と文化系統>

- 観光地へ個々にタクシーを使うのではなく、バスをだす
- 観光ツアーを組み複数の観光客で同じ経路を回ることを推進

## <理数科学系統>

- それぞれの移動手段でのCO2排出量を調べ、周知する方法を考える

## <食と農マネジメント系統>

- フードマイレージ  
食料の生産地から食卓までの距離が長いほど、輸送にかかる燃料や二酸化炭素排出量が多くなるため、環境への負荷が大きくなる
- 農作物の輸送方法について

### ワークシート③をしてみよう

自分の考える「持続可能な社会のための交通環境」を実現する〈方法〉とその結果〈期待できる効果〉

- ※周りの人と話す必要はありません
- ※先生は自分の担当する系統の生徒の様子を見てください

### ワークシート④をしてみよう

前後左右、周りの人と自分の考えたことを共有して、〈共感できた部分〉〈相違点(違い)〉をまとめてみましょう

- ※先生は自分の担当する系統の生徒の様子を見てください

### ワークシート⑤をしてみよう

- ・各系統ごとにグループを作ってください。
- ・現在のクラスにこだわる必要はありません。
- ・4~6人でつくること。
- ・グループのファシリテーター(リーダー)を決めて、担当の先生に報告してください。

☆ファシリテーターはグループをまとめられる人物がいい

地域と社会:田中	理数科学:福本
言語と文化:中坊	食と農:花川

1年 組 番 氏名

## 総合進学コース：モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）①

### ①『モビリティ・マネジメント』って何？

モビリティ・マネジメントとは、『一人ひとりの移動や、まちや地域の交通の在り方を、工夫を重ねながらより良いものに改善していく取り組み』のことです。

- ・「地域の公共交通」を考える。
  - ・「クルマ社会」を考える。
  - ・「交通まちづくり」を考える。
  - ・「モノの流れ」を考える。
- } 論理的に、そして多角的な視点で。

### ②下記のテーマを参考に、各自で交通環境について考えよう。（希望している系統ごとに）

『地域と社会系統』

- ・公共交通機関は、地域の観光（世界遺産）にどのように関わっていくことが出来るか。

『言語と文化系統』

- ・藤井寺市内の3つの駅を利用し、充実した歴史・文化遺産をめぐるプランニング。

『理数科学系統』

- ・「クルマ社会」が生み出す環境汚染とその対策。

『食と農マネジメント系統』

- ・フードマイレージから「食」を見つめ、「地産地消」を考える。

※この内容に固執する必要はありません（上記は一例です）

### ③自分が考える「持続可能な社会のための交通環境」

《方法》

現代社会の教科書の最初に、環境問題に関することが載っています。それを参考にするもよし。マルチメディアが空いていれば使用することをお勧めしますが、1クラスしか入れないため、担任の先生方の許可のもと、スマホで調べることもご検討ください。

あくまで、環境問題と交通を絡めることが重要です。（簡単に言えば Co2 の放出など）

《期待できる効果》

④クラスメイトが考える「持続可能な社会のための交通環境」(複数名と意見交換)

1. ( )さんの考え  
 <<共感できた部分>>

<<相違点>>

2. ( )さんの考え  
 <<共感できた部分>>

<<相違点>>

3. ( )さんの考え  
 <<共感できた部分>>

<<相違点>>

最低でも2人と意見交換し、お互いが共感できた部分と、考えが違った部分を記入する。  
 相違点を記入する際の注意点として、相手の考えを否定するのではなく、『こんな考えもあるのか。なるほど。』というようなスタンスで。

⑤次年度以降、同じ系統に進むクラスメイト同士で班を形成

※次週に回しても OK!

班員	個人が考える「交通環境」のテーマ
◎	
<p>それぞれが持ち寄ったテーマの中から、班でのテーマを決める。複数の意見を纏めて、1つのテーマにするのも良い。その際、必ず進む系統に則したものにすること。</p> <p>◎ファシリテーターは、班員を纏めることが出来る人物が望ましい。</p>	

## 2021年度 1学年 総合的な探究の時間 学習指導案②

1学年：沖島 和明

0. 実施日：令和3年11月18日(木)5時間目

実施クラス：1年5・6・7・8組(総合進学コース)

実施教室：HR 教室(124教室・141教室・マルチメディア教室 等)

1. 主題：系統ごとに考える『持続可能な社会』

2. 主題設定の理由・目標

・『モビリティ・マネジメント』とは何なのかを理解し、「持続可能な社会」を系統ごとに話し合うことで、「地域の公共交通」・「クルマ社会」・「交通まちづくり」・「モノの流れ」を考える機会とする。また、先入観にとらわれることなく論理的思考力・多角的視点を養いながら、交通を取りまく様々な問題の解決を目指す。

《地域と社会系統》

・なぜ、高齢者は買い物に困っているのだろうか。その解決策を考える。

《言語と文化系統》

・藤井寺市内の3つの駅を利用し、充実した歴史・文化遺産をめぐるプランニング。

《理数科学系統》

・クルマから排出される Co2 を「吸収」「除去」する『カーボンニュートラル』を考える。

《食と農マネジメント系統》

・『フードマイレージ』とは何かを知り、「食」と「地産地消」を考える。

3. 学習項目

◎公共交通機関と歴史的文化的文化財の共存(提出した企画書のタイトル)

・『モビリティ・マネジメント』とは何か。グリーンホールにて講演(終了)

・『モビリティ・マネジメント』とは何かを理解し、「持続可能な社会のための交通環境」を考える。(終了)

・2年次からの希望系統ごとに、「持続可能な社会のための交通環境」についてのグループワーク

(本時・次回)

※希望している系統ごとに、4~6名程度のグループを作成してください。

・系統ごとに考えた「持続可能な社会のための交通環境」を、グループごとに発表(1時間・最終)

#### 4. 展開

	学習内容	指導上の留意点	配当時間	備考
導 入	前回の講義の復習	挙手または指名しながら、前回の授業(講義)を振り返る。	5分	ワークシートに記入
展 開 ①	グループ編成	4~6名のグループを作成し、議長(ファシリテーター)を決める	10分	男女混合で構わない ワークシートに記入
展 開 ②	グループが編成されたら、各自でワークシートを読み、自分の考えをまとめ記入する	自分なりの起承転結を作れるよう、机間巡視しながらヒントをあげる	13分	
展 開 ③	まずファシリテーターが自分の意見を発表し、次々に指名して全員の意見を共有する	起(全員)→承(全員)→転(全員)→結(全員)の順に意見を共有 それぞれワークシートの④に書き出しながら、グループとしての意見をまとめる	20分	20分以上かかっても構わない
ま と め	次回の説明	グループのまとめを模造紙にまとめることをアナウンス	2分	

※ 前回の授業を思い出させながら、グループごとに話し合わせてください。先生方は机間巡視しながら、ヒントを与えてください。

※ 「正解は必ずしも1つとは限らない。」ことを強調していただき、社会(世界/日本/地域)で起こっている問題を、自ら調べ、考え、話し合いながら答えを出し、実行に移すことを目標としていることも生徒たちに伝えてください。

『*Think Globally, Act Locally.*』(～地球規模で考え、身近なことから行動しよう～)



## 総合進学コース：モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）②

### ●地域と社会系統 A 班のまとめ

#### ①『モビリティ・マネジメント』とは？

『（一人ひとりの移動）や、（まちや地域の交通）の在り方を、（工夫）を重ねながらより良いものに（改善）していく取り組み』のことです。

- ・「地域の公共交通」を考える。
  - ・「クルマ社会」を考える。
  - ・「交通まちづくり」を考える。
  - ・「モノの流れ」を考える。
- } 論理的に、そして多角的な視点で。

#### ②それぞれの系統ごとに、下記のテーマについて考えてみよう。

『地域と社会系統』

◎なぜ、高齢者は買い物に困っているのだろうか。どんな解決策があると思いますか。

#### 起 原因の探究

1. 路線バスや路面電車は、なぜ少なくなったのかを考えてみる。
2. 郊外型ショッピングモールには、なぜ人が集まるのかを考えてみる。
3. 市街地商店街に、なぜ人が行かなくなったのだろう。

#### 《出てきた意見》

1. 利用者の減少が大きな原因。しかし、廃線が進むことで高齢者や障がい者が買い物に困っている。
2. 大型のショッピングモールは品揃えも豊富で、家族で食事ができるフードコートもある。
3. 商店街に人が行かなくなったのは、単純に行く意味がないからだと思う。シャッター街では、相乗効果が見込めない（ついでの買い物ができない）。

#### 《グループのまとめ》

- ・商店街を活性化させるためには、商店街に行くメリットは何なのかを考える必要がある。
- 例えば、昭和レトロな街並みは高齢者が懐かしみ、若者は新鮮に感じるので行ってみたいかなと思う。そのようなイベントを催すことで人が集まり、経済効果も見込める。

## 承 心情への共感

・路線バスの廃線などにより困っている人（高齢者や障がい者）の気持ちを考える。

※歩いて買い物に行く、重い荷物を運ぶ辛さなど

### 《出てきた意見》

- ・夏の暑さや冬の寒さ、また長時間の徒歩は高齢者、障がい者にとって苦痛でしかない。そうすれば買い物に行く機会も減り、健康被害を及ぼす可能性もでてくる。
- ・高齢者や障がい者の実際の声を聴いてみる必要がある。

### 《グループのまとめ》

- ・高齢者の多い田舎（限界集落など）に、若者が住みたくなるような誘致活動をすれば、単純に店舗も増えて商店街に活気が戻るのではないか（Iターン・Uターンしたくなるような町づくり）。そうすれば、公共交通機関が必要となり、廃線取りやめとなることも考えられる。

## 転 価値の究明

- ①クルマに依存し、便利さを追求して効率重視の社会
- ②公共交通機関を維持して、クルマを利用しない人にも優しい公正な社会

※どちらが大切なのかを考える

### 《出てきた意見》

- ・効率重視の社会も公共交通機関の維持も両方大切である。どうしたらバランスがとれるのかを考えないといけない。

### 《グループのまとめ》

- ・路線バスや路面電車の本数が減ったり廃線となるのは利用者数が減少しているからで、駅や停留所付近に集客のためのスポットを作り、取って代わりのダイヤを増やしてみる。ゴールから逆算して集客するという逆転の発想も必要。

## 結 意思決定

・高齢者が安心して買い物するためには、どのような対策が必要だろうか。

### 《出てきた意見》

- ・コミュニティバスや送迎バスを上手に利用する。
- ・出前館やウーバーイーツなどの流行に乗かって、移動スーパーや移動コンビニを月に数回実施する。

### 《グループのまとめ》

- ・高齢者や障がい者が買い物をするためには公共交通機関が必要なので、回数券を配布するなどバスや電車に乗るメリットを作る。
- ・地域活性化と買い物の利便性の両方を達成するためには、買い物しやすいバス停留所を作る必要もあるし、車椅子が通りやすいようにインフラを整備する必要もある。

## 総合進学コース：モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）②

### ●言語と文化系統 B 班のまとめ

#### ①『モビリティ・マネジメント』とは？

『（一人ひとりの移動）や、（まちや地域の交通）の在り方を、（工夫）を重ねながらより良いものに（改善）していく取り組み』のことです。

- ・「地域の公共交通」を考える。
  - ・「クルマ社会」を考える。
  - ・「交通まちづくり」を考える。
  - ・「モノの流れ」を考える。
- } 論理的に、そして多角的な視点で。

#### ②それぞれの系統ごとに、下記のテーマについて考えてみよう。

『言語と文化系統』

◎藤井寺市内の3つの駅を利用し、充実した歴史・文化遺産をめぐるプランを立てよう。

#### 起 原因の探究

1. 古市古墳群は世界遺産であるにもかかわらず、なぜ観光客が少ないのか。
2. 古市古墳群には駐車スペースがない。公共交通機関が果たす役割は何か。
3. 古墳だけに拘らず、藤井寺市の観光スポットはどんな所があるか。

#### 《出てきた意見》

1. 藤井寺市は大阪府で一番小さく（日本では5番目）、知名度が低い。市自体の知名度が低いので、世界遺産があることすら認知されていない。どうしても、政令指定都市である堺市のイメージが強い。
2. 古墳は世界遺産とはいえ、大王の墓であるため、そもそも観光地ではなく、駐車場を作る必要がない。
- 3.

#### 《グループのまとめ》

- ・古市古墳群だけでなく、多くの寺社があり、その歴史を感じることができるスポットやイベントもある。また、お洒落なカフェなども充実している。それなのに知名度が低いので、これは電車やバスを利用して、観光プランを立てるチャンス！

## 承 心情への共感

1. 観光スポット巡りには「クルマ」を使用することができない。
2. 大阪市内から電車でのアクセスが抜群であること。
3. タクシーは便利だが価格が高い。

### 《出てきた意見》

- ・タクシーを利用すると高いし、「クルマ社会」から脱却できない。
- ・藤井寺駅、道明寺駅、土師ノ里駅の3駅は、大阪市内から電車でスグということを広告などでアピール。

### 《グループのまとめ》

- ・道が狭く、車やバスでは廻れないのであれば、京都のように人力車で廻ると、歴史スポット巡りの雰囲気が出て面白そう（Co2 も排気されない）。そのために、電車のポスターでイベント開催を告知すれば集客も見込めるし、SNS で発信すれば口コミで広がると思う。

## 転 価値の究明

1. 世界遺産に登録されている古墳群を巡らないのは勿体ない。
2. 藤井寺市と大阪緑涼高校とのコラボ企画は可能だろうか。

### 《出てきた意見》

- ・藤井寺市にある歴史遺産は、市内3駅のどこからでもアクセス可能。
- ・それぞれの駅から順に巡るツアーの開催を考える。

### 《グループのまとめ》

- ・道明寺（十一面観音菩薩像）→葛井寺（千手観音菩薩像）→仲哀天皇陵→埴輪製作体験の企画 など
- ・駅発行のスタンプラリーで、コンプリートしたら特典ありにするなど、藤井寺市、近鉄電車（関西の私鉄で一番長い）とのコラボ企画で、ツアーの説明は本校生徒がやってみると、地域とのつながりも生まれそう。

## 結 意思決定

- ・観光客を増やすために、公共交通機関が果たせる役割を考える。

### 《出てきた意見》

- ・電車やバスを利用して、歴史遺産巡りができることを全面的にアピールする。
- ・SNS で映えスポットを発信し、藤井寺市には多くの歴史遺産やお洒落カフェがあることをアピール

### 《グループのまとめ》

- ・藤井寺市は道路が狭く、観光スポットを車やバスで廻ることは難しい。だからこそ、公共交通機関の役割が重要で、『電車を使って歴史遺産を廻ろう！』プランを立て、まずは藤井寺市を知ってもらうことが大切である。遺産を廻るだけでなく、その場その場でイベントを開催し、駅や車内での広告でアピールすれば集客を見込めるのではないかと。また、SNS を上手く利用することで、若者にもアピールすることができ、公共交通機関の利用客アップとともに藤井寺市のアピールにも繋がると思う。

## 総合進学コース：モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）②

### ●理数科学系統 C 班のまとめ

#### ①『モビリティ・マネジメント』とは？

『（一人ひとりの移動）や、（まちや地域の交通）の在り方を、（工夫）を重ねながらより良いものに（改善）していく取り組み』のことです。

- ・「地域の公共交通」を考える。
  - ・「クルマ社会」を考える。
  - ・「交通まちづくり」を考える。
  - ・「モノの流れ」を考える。
- } 論理的に、そして多角的な視点で。

#### ②それぞれの系統ごとに、下記のテーマについて考えてみよう。

『理数科学系統』

◎クルマから排出される Co2 を「吸収」「除去」する『カーボンニュートラル』を考えてみよう。

**起** 原因の探究

1. 『カーボンニュートラル』って何？
2. クルマの走行以外に、生産や廃棄の過程でも Co2 は発生している。

《出てきた意見》

1. カーボンニュートラル=温室効果ガスの排出量と吸収量を均衡（ニュートラル）にする取り組み
2. 生産の過程では、多くの機会が動くため、工場からの温室効果ガス排出量が多い。  
また、廃棄の場合にも同じことが起こるため、大量生産・大量消費を減らす必要がある。

《グループのまとめ》

- ・温室効果ガスの吸収量を増やすためには、森林伐採はいけない。  
森林伐採=高層ビルの建設ということを考えると、カーボンニュートラルの考えとは反比例している。全ての経済活動には、温室効果ガスが排出される。
- ・カーボンニュートラル実現のためには、「自分には無関係」という考え方が一番いけない。

## 承 心情への共感

・日本と世界の「再生可能エネルギー」を比べ、日本の『カーボンニュートラル』を考える。

### 《出てきた意見》

・資源には限りがあり、再生可能エネルギーは自然界に多く存在している。

(太陽光・風力・地熱・バイオマスなど)

日本の火山を有効利用できないか。

### 《グループのまとめ》

・2020年に、菅義偉元内閣総理大臣が、「2050年までに国内の温室効果ガス排出量をゼロにする。」と言っていたように、既に日本でも定着しており、各企業でも取り組みが進んでいる。

## 転 価値の究明

・政府が掲げている「2035年までに、乗用車新車販売で電動車100%を実現できるような措置」について、「クルマ業界」が取り組んでいることには、どのようなことがあるか。

### 《出てきた意見》

・既に日本のクルマ業界でも、電気自動車や燃料電池車の開発が進んでいる。

開発、生産の過程で排出される温室効果ガスについてはどのように考えているのか。

・今の高校生が車を買うときには電気自動車も今より普及しているとは思いますが、価格帯が心配。

・他にも、バイオディーゼルの開発・普及が進んでいる。

### 《グループのまとめ》

・クルマ業界では電気自動車の開発でカーボンニュートラルの取り組みを行っているが、電気自動車を普及させるためには、充電設備の充実も急がなくてはならない。

・鉄鋼業界でも石炭の代わりに水素で製鉄するなどの研究が進められていたりする。

## 結 意思決定

・私たちのどのような取り組みが『カーボンニュートラル』になるか考えてみよう。

### 《出てきた意見》

・日本で取り組んでいるカーボンニュートラルには、どのようなものがあるかを知っておく必要がある。

・持続可能な経済社会をつくるために、もっと知識を増やす必要がある。

・森林伐採はカーボンニュートラルの敵であるため、森林保全は大切である。

・ペットボトルの廃棄処理のときには温室効果ガスが出るため、マイボトルを推進する。

### 《グループのまとめ》

・意識を高めることが何よりも大切である。3Rの推進や冷暖房の使い方、クールビズとウォームビズ、常に省エネを意識、宅配便は1回で届けてもらう(何回も運ばせると、その分Co2排出量が増える)など、今すぐにでも出来ることはたくさんある。

## 総合進学コース：モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）②

### ●食と農マネジメント系統 D 班のまとめ

#### ①『モビリティ・マネジメント』とは？

『（一人ひとりの移動）や、（まちや地域の交通）の在り方を、（工夫）を重ねながらより良いものに（改善）していく取り組み』のことです。

- ・「地域の公共交通」を考える。
  - ・「クルマ社会」を考える。
  - ・「交通まちづくり」を考える。
  - ・「モノの流れ」を考える。
- } 論理的に、そして多角的な視点で。

#### ②それぞれの系統ごとに、下記のテーマについて考えてみよう。

『食と農マネジメント系統』

◎『フードマイレージ』とは何かを知り、「食」と「地産地消」を考えてみよう。

#### 起 原因の探究

1. コンビニ弁当って、どんな時に購入する？
2. コンビニ弁当の材料、生産地はどこだろうか。
3. 売れ残ったコンビニ弁当……どうなるの？

#### 《出てきた意見》

1. 忙しい時や、すぐに食べたいときに購入することが多い。早くて便利。  
食べたいときに食べたいだけ選べる。
2. 外国産が多いことは知っていたけど、それについて考えたことは正直なかった。
3. 廃棄されてしまうため、どうしても食品ロス問題に繋がってしまう。

#### 《グループのまとめ》

- ・忙しい時や、買ってすぐに食べられるというメリットから、コンビニ弁当を買ってしまうことが多くなっている。  
利便性ばかりを考えてしまっていた。
- また、容器がプラスチックでできていることも忘れてはいけないと思った。

## 承 心情への共感

・お手頃なコンビニ弁当は日常生活に定着しているが、その食材の多くは輸入食材であり、フードマイレージが大きく、環境に負荷がかかっている。

### 《出てきた意見》

- ・フードマイレージという言葉と意味を知る良い機会になった。
- ・コンビニ弁当は確かに便利だが、その材料のうち、海外の食材がどれだけ入っているのかを考える必要がある。
- ・自分の住んでいる地域の特産物が何なのかを知る機会にもなるのではないか。

### 《グループのまとめ》

- ・コンビニ弁当を買う、輸入の食材ばかり使うことは便利や低価格などのメリットばかりだと思っていたが、実際、食料の重さや移動距離の分だけ、Co2 排出量が多くなり、環境汚染につながることを知ることができた。

## 転 価値の究明

1. コンビニ弁当は便利で手頃だが、輸入食材や食品ロスに問題はないのか。
2. 地産地消のコンビニ弁当は作れないだろうか。

### 《出てきた意見》

- ・コンビニ弁当の食材には外国産のものが多く、生産者の大変さがイメージできない。
- ・魚や国産野菜など、健康重視のものを作れば需要は増えると思う。

### 《グループのまとめ》

- ・日本人はコンビニ弁当を買うとき、必ずと言って良いほど米の産地は気にするが、その他の材料の産地を気にすることは少ないと思う。農家や漁業の方たちとのコラボ弁当を開発するなど、方法はあると思う。

## 結 意思決定

- ・輸入食材を減らし、地産地消を増加させるための方策を考えてみよう。

### 《出てきた意見》

- ・輸入食材ばかりに頼るのではなく、国産食材の有難みを考えてみる。
- ・地産地消を増加させるために、自分たちの住んでいる地域の特産物などを調べてみる。

### 《グループのまとめ》

- ・農家だけでなく、自分たちも食品ロスに関わる機会を作る必要がある。
- ・農業体験することで、その大変さと食材の有難みを知る必要がある。その体験で収穫した食材で実際に料理し、達成感や食品ロスへの問題を真正面から向き合う。
- ・農業体験の食材で、オリジナル弁当を販売し、地域の方に購入してもらおう。



## 総合進学コース：モビリティ・マネジメント教育（交通環境学習）②

### ●食と農マネジメント系統 E 班のまとめ

#### ①『モビリティ・マネジメント』とは？

『（一人ひとりの移動）や、（まちや地域の交通）の在り方を、（工夫）を重ねながらより良いものに（改善）していく取り組み』のことです。

- ・「地域の公共交通」を考える。
  - ・「クルマ社会」を考える。
  - ・「交通まちづくり」を考える。
  - ・「モノの流れ」を考える。
- } 論理的に、そして多角的な視点で。

#### ②それぞれの系統ごとに、下記のテーマについて考えてみよう。

『食と農マネジメント系統』

◎『フードマイレージ』とは何かを知り、「食」と「地産地消」を考えてみよう。

**起** 原因の探究

1. コンビニ弁当って、どんな時に購入する？
2. コンビニ弁当の材料、生産地はどこだろうか。
3. 売れ残ったコンビニ弁当……どうなるの？

《出てきた意見》

1. 便利であるが故に、時間がない時や直ぐに食べたいときに購入する。
2. 米は国産のものが多いが、肉類は外国産が多い。
3. スーパーなどでは半額で販売しているが、コンビニでは見たことがない。

《グループのまとめ》

- ・時間がない時や忙しい時に購入する、という意見が多かった。
- ・使っている食材に外国産が多いのは、輸入に頼った方が一気に大量に入荷できるので、コンビニ弁当など需要が高いものにはコスト削減になっているのではないか。しかし、大量生産が可能な反面、食品ロス問題にも繋がっていることにも気づかされた。

## 承 心情への共感

・お手頃なコンビニ弁当は日常生活に定着しているが、その食材の多くは輸入食材であり、フードマイルージが大きく、環境に負荷がかかっている。

### 《出てきた意見》

- ・どれだけの食材が、海外から輸入されているのかを知る必要がある。
- ・日常生活に定着している食材の多くは輸入食材であり、環境にも大きな影響を及ぼしている。
- ・忙しい日本人にとって、便利なものに頼ってしまうことは、仕方ない部分もある。

### 《グループのまとめ》

- ・「生きること」＝「食べること」なので、輸入に全く頼らないというのは難しい。しかし、何でもかんでも輸入に頼るという部分を考え直し、例えば輸入牛100%使用のハンバーガーと、国産米100%使用のおにぎりのフードマイルージを調べてみるなど、環境に与える影響を考える機会が必要。

## 転 価値の究明

1. コンビニ弁当は便利で手頃だが、輸入食材や食品ロスに問題はないのか。
2. 地産地消のコンビニ弁当は作れないだろうか。

### 《出てきた意見》

1. 便利で手軽だからこそ、食品ロスが出てしまうのではないかと（簡単に手に入るから有難みが薄い）。  
そういうことを意識して、コンビニ弁当を購入している人が果たしてどれだけいるのか。
2. その地域限定の弁当をコンビニで販売することは、決して難しいことではない。  
輸入食材に頼らないコンビニ弁当を実際に作ってみたら、日の丸弁当しか店頭には並ばないのでは。

### 《グループのまとめ》

- ・輸入食材を使わないコンビニ弁当を作ろうと思ったら、確かにコストはかかってしまう。しかし、国産の食材は安全で美味しく、国産牛の代わりに魚を使ったり、地元の農家と一緒に弁当を開発することができれば、できるだけ低コストの健康にも良いヘルシー弁当ができる。

## 結 意思決定

・輸入食材を減らし、地産地消を増加させるための方策を考えてみよう。

### 《出てきた意見》

- ・自分の食生活を見直す良い機会にもなると思う。
- ・「売れ残り」＝「食品ロス」に繋がるのであれば、輸入量を見直す必要がある。
- ・食材の良さをもっと知るべき（コンビニ弁当の栄養価を気にしてみる）。

### 《グループのまとめ》

- ・この問題に関して大切なのは、まず一人ひとりが意識を変えることだと思った。まず、国産（地域産）食材には、どのようなものがあるのかを知る必要がある。そして、その食材の良さを理解し、普段は棄てている部分も何かしらの味付けで食べられるようにするなど、できる工夫はたくさんあると思った。

